

# 文化財保護行政の移管による新たな展開

## ストーリー性を持った文化資源の発信

- 「青谷上寺地遺跡」では、腐りにくい土器や石器だけでなく、木器や骨角器、織物やかご、国内初の人間の脳や骨、排泄物までが、良好な状態で大量に出土。
- 弥生人の暮らしぶりが復元でき、生き生きと蘇る「地下の弥生博物館」と言われる貴重な遺跡。
- 他地域の影響を受けたもの、朝鮮半島から伝わったと思われるもの、古代舟等も多く出土。
- 少し離れた「青谷横木遺跡」では、渡来系の板絵や国内初となる古代の街路樹跡が発見。

当時の青谷平野イメージ



周辺の遺跡とあわせ、日本海に開かれた玄関口として大陸との交流、文化融合の拠点であったことがわかる  
**「交流のクロスロード」**といった弥生時代の暮らしぶりに思いを馳せる歴史ロマンの拡がりを提案



## 歴史遺産密集地として文化資源の面的展開と発信

- 各時代の遺跡が所在する歴史遺産密集地としての発信
  - ⇒国内最大級の弥生時代集落である「国史跡妻木晩田遺跡」
  - ⇒古墳時代(向山古墳群、石馬)、白鳳時代(上淀廃寺)、幕末(淀江台場)等が密集



妻木晩田遺跡

**「時空を超えた遺跡巡り」**といった統一的主题に沿って、個々の文化的「点」である異なる時代の遺跡、施設の関係性について、「面」的なストーリー性をもって総合的な発信が可能



山陰の「国邑」を彷彿させる遺跡の数々が古代へのロマンをかき立てる



上淀廃寺跡の仏教壁画

